

エイトビート

明日死ぬ

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

サムライ×SF×ラップ

# 目次

Le plus important	1
est invisible	1
ヒステリックナイトガール	9



L e p l u s   i m p o r t a n t   e s t   i n v  
i s i b l e

神曰く、始めに言葉ありき。

言葉は神と共にあり、言葉は神であつた。

そしてサムライ8があつた。

今日は星の王子様というアニメを見た。

『大切なものは、目に見えない』とキツネは言う。でも俺にとっては、目に見えるこの小さな世界が全てだ。最初王子は自分の星で咲いた一本の薔薇を、棘はあるけど美しく貴重なものだと思つた。その後別の星で数千本の薔薇を目にして本当はありふれたもの

であると感じた。このシーンが印象に残ったのは、自分が薔薇みたいだと思ったからだ。俺は装置に繋がれているけれど、父ちゃんは違う。王子みたいに、喧嘩別れしたら、逃げ出せる。父ちゃんは俺のことだった一人の息子として可愛がってくれてるけど、もし俺以外の子供が居たらどうなるんだろうって。

「ほら、アニメなんかみてないで、点滴の時間だ」

「ねえ父ちゃん」

「何だ？」

「隠し子とかいないよね？」

「……………少し出かけてくる」

「えっ」

その言葉自体は何回も聞いたけど、答えてくれなかったのが少し辛かった。因みに王子は蛇に噛まれるらしい。何故だか嫌な予感がする。だとして、何にも出来ない。強くなりたくない。侍みたいに。

「俺は侍a u a i つまり危ないa u a i」

武士は強くて屈強な人がなれる。その中でも武神に選ばれた人を侍という。つまり

凄い存在。侍になればサイボーグになって身体が傷ついても再生する。だから倒すには刃じやなく言の葉が必要だ。といつても、俺には必要ない。父ちゃんを、自分を傷つけることしか出来ないし。

何となく空を見上げたら、見たことのない男が降つてきて、生命維持装置が壊れた。

「お前が八丸か」

身体が死に向かつていく感覚。誰かは知らないがお供のホルダーと刀を持っている——侍。痣だらけの父ちゃんの顔が映し出された。

「お前の心臓に童子切高綱の侍魂が隠されている」

「切腹するんだ。運が良ければ、侍になれる」

「もしお前が侍になれば、内から侍魂が生まれ金になる。そうすれば父親は助けてやる」

切腹することで、侍になれるらしい。なれるとは思っていない。でもやらなきや父ちゃんが死ぬ。どのみち、俺は数分で死んでしまう。

「八丸！」

この命を、何かのために使えるなら、それは父ちゃんのために。

……身体が軽い。生きている。

「……侍になつたか」

「勝負だ。父ちゃんを——」

「逃げるつもりはない。やり方は解るか？ 先行か後攻を選び、音の上で規定の拍数の間言葉を紡ぐ。これを何回か繰り返す」

早太郎ホルダーが俺の腕に飛び込み、刃マイクに変わる。そして空気が変わる。侍はラッパーになる。

「先行は俺だ」

推奨 バトルビート BGM 流星

始まるバトル軽くあしらう 介錯してやる恥かく前

体格悪い八丸にアーメン 負け味わうまでにやる情け

吐き出すベース まずフロウと苦勞 バックボーン無ければ嘘だろう

立場を知り諦める端役早く You know what I'm saying?  
言つてる意味分かる？



音と音が繋がり、その強さが増す。言葉が重しとなって俺を拘束する。後で知ったが、韻力というらしい。そして音に対する乗り方をフロウと言う。後攻である俺は、この内容に対してアンサーを行う必要がある。

なのに、言葉が出ない。音ゲーをやってきた、乗り方は大丈夫。でも、俺には人生バースが無い。何を言えればいいんだ？ アニメとか漫画とか、それが俺の全てなのに。

「」

いや、違う。『大切なものは、目に見えない』。何が大切かどうかというのは、心が決める。俺がどう思うかが重要なんだ。

ミカエル・クローニンワールドトリガーに登場する技術者のように見返すもうじきこ

れは無差別攻撃火つけるから warning

マジック&マツシユ ルーム303 パニック&バグ 狂う アンデッドアンラック

首降らす鎌麒麟ワンピースに登場するカクというキャラクターの技ローリング あ

ちこち walking しつつ パロディ仕掛ける坂田銀時

つまりは白夜叉か阿修羅の八部衆 アクタージュみたく役者が違う

「少しはやるようだが、所詮子供。」

分かってないらしいな誇りあるのか どっちが音に乗り飛びますか

俺はノトリーアス・B・I・G ジョジョの奇妙な冒険に登場する能力名 元ネタはラッ

パー 一対一なら負けなし

お前のラップはリアリテイないからイマイチ びた一文もやれないし

さつさと摘み取る侍魂 ダンクシユートぶち込む桜木花道

「負けるかっ!」

考えるんだ。侍魂⇒危ない話 相手の言葉を拾え イマイチ⇒ピカイチ アンサー

しろ バカボンドスラムダנקの作者である井上雄彦氏の宮本武蔵を主人公とした漫

画⇒パワーボンド遊戯王における機械族融合モンスターを対象とした魔法カード 何

を言えばいい？ B・I・G⇒死体に 話を纏めろ しかしどう繋げる？

『お前の心臓に童子切高綱の侍魂が隠されている』『もしお前が侍になれば、内から侍魂が生まれ金になる』これだ。即興で組み立てろ！

言う事お金で失う誉 舞え卍解白霞爵

育ててくれた父ちゃんのおかげで top of the head 即興で宇宙へ

ここで散体刀狩 落ち武者解釈頭わりい

今日からMCラッパーのこと。MCネームは芸名サムライエイト お前を八つ裂きにするちえりお！ライトノベル刀語の登場人物とがめの口癖

武神による審判で勝敗が決まる。

「バカなっ……この俺がこんなガキに」

「俺のラッパに飽きたとでも？」

「こんな恥晒し、耐えられない」

「ぐわあああああああ」

侍は、散体した。

「……父ちゃん、助けにいかなきゃ」

居場所は、ご丁寧に映し出してくれた、今の俺なら手が届く。目を閉じて、思い浮かべろ！

「転移（ジヨウント）」

目を見開いたら、父さんがいた。

「侍だ、逃げろっ！」

「八丸……」

「これからは、俺が父さんを守るよ」

# ヒステリックナイトガール

居場所がない奴つてのはどこにでも居る。

真面目そうな委員長も喧嘩に明け暮れる不良も人気のアイドルも総理大臣も、多分どこかで居場所を探している。ボクみたいなどうしようもない人間も、同じだ。

宇宙よりも広いネットの海で、どうしようもない僕らは引き寄せられる。  
独り言よりかはマシだろう？

今日は違った。

「今日はやけに機嫌がイイね」

「聞いてくれ、俺は侍になったんだ」

「……え？」

輝かしい姿だった。喜ばしいことだと思っ、だけどボクは素直に祝福出来なかつた。  
嫉妬か？ 世の中の最底辺のボクが同類だと思つた相手に？ それもある。

「だったら、ここを出ていきなよ」

「何だよいきなり」

「……不死の身体を手に入れた君は転移ジョウセントをリスクなしに扱うことが出来る」

ジョイント

転移は原理は不明なのに出来ると思つた人は出来る、不思議な力だ。これによりゲームのラグは残っているが人々は一瞬で行き来する歪な文化が形成され、争いが起こつた。それを止めたのは侍だ。死なない侍は全ての暴力的な争いを無意味なものにしてしまふ。転移を下手に使うと宇宙や石の中に飛ばされてしまうから、常用している人は少ない。侍は不死という特性でこれらのデメリットを無視できる。だから侍だけは、敵対してはならない。目につけられたが最後、燃やされようが凍り付こうが追つてくる。

それだけ、侍というものは神聖視されている。

「こんなくだらないところでお喋りする身分じゃない」

「は？　なんだよ身分つて。くだらなくなんかないよ」

「今は自覚していなくてもいいけど、侍つてのは凄い存在で」

彼は中々解つてくれない。

「だったらお前も侍になればいいだろ」

「何を言っているんだ、大体君だつて先端恐怖症だつたんじゃないのか？」

「そうとも言えるしそうでないとも言える」

「何だよそれ」

言い争つても、決着はない。ボクたちはそういう時、ラップで決める。侍に憧れたから。

ボイスチャット

V Cを開く。侍は己の身体からコードを出すらしい。イヤホンを耳に取り付けた時、自分が待みたかと思えた。

「じゃあ、先行はボクから」

推奨BGM バトルビート Keep It 100

「意志薄弱なクリミナルガールズ 半罪人は捧ぐ無機質なラブ

いつか自分を好きになるはず と履いたけどぶかぶかな黒スキニーパンツ

こんな風にイキリ出す奴には罰を 死にたくなるけど覚悟もないよ

君はユビキタスな存在 スピリタスのような刺激的 だからボクとやったってクリ

ティカル」

「偏在し全開で限界はない現在 天才の連載は健在これ善哉

繊細な剣先向けるジエダイ 見解の変化コペルニクスの転回

天涯孤独でも咲かす椿 スイッチオン・見せてく FreakyなFlow

ゼンマイを巻くAT Lady! オトナチックになれない二人」

6Fの遅延を超えて刺さる言葉。

「俺の負けだ」

「侍なのに、かい？ 散体は？」

「いや、お前の方が才能あるから」

馬鹿々々しい、侍になんかなれるわけないのに。

「サイファーやってたのは。俺たち二人、侍に憧れてたんじやないのか？」

「……そうだよ」

「だったら」

「君とボクは違う」

「目と目合わせれば、分かり合えるよ」

「何を……」

いや、それで満足するならいいか。

ボクは昔から存在感が薄い、掲示板の名無しでしかない。何かの間違いでボクを見かけることがあっても、個人情報を晒すリスクは0だ。カメラを起動する。

僕の顔を見た彼はすぐに消えた。

『やっぱり気持ち悪いって思われたんだ』

『そんなことないわ ナナシはかっこいいもの』

独り芝居。君と話している時は、たった一人で居られたのに。

ジョウ  
転移

「腕が！」



欠損した腕がにゆるりと再生。侍という名の異形。

「思ったより早く着いた。俺たち、思ってたよりもずつと近くに居たんだな」

確かにボクの部屋を認識すれば出来るかもしれないが、無謀だ。

「どれだけ掛かるかも判らないのに。宇宙で朽ちてたかもしれない」

「それでも侍なら何時かは着くだろう？ 俺は今行かなきゃって思ってたんだ」

「……………」

「やろうぜ、バトル」

推奨 BGM Don't you want me

「死屍を鞭打つ桐条美鶴 女帝も処刑の時刻と気づく」

空は朧月 靄を大掃除 振るうほのおのムチ 作る常世の国

俺の体たらく？ 変化ある？ お前は掛かっているぜテンタラフー

結果泣いても喧嘩するだけ まずコンセントレイト 呆然としてんぞ？」

「don't be afraid 混乱してない 白と黒のボーダーライン

使い分ける斑鳩 乱すならば ひたすらに開き直り続ける二枚舌

今井リサの弟みたく 自ずと消える定め change the rules

of the game

きらきら星目掛け BanG BanG BanG BanG Dream! I don't

t wanna be friends」

「斑鳩使い分け陰陽変華 切らす腹その先は沈丁花

お前が侍になって真骨頂 發揮すべきこれが俺の心情です

いざ忍転身 目指す新天地 お前をM&A やろうぜコンビで

let's to be continued play the game 秘

伝忍法 絶華鳳凰閃」

「ボクは群れない剥けない膠も無い奴 人生も暗い 胸もないんだ

語り掛けてくる天使と悪魔と小柳 被害妄想が止まらない限り

いや小柳って誰なんだ お邪魔虫は消えてくれ 柳生十兵衛も切り裂く始末剣

脳細胞侵食する紅梅色 まがいものの剣紅桜 アサシン岡田仁蔵 ならない評価対

象」

侍同士のバトルじゃないから、武神は裁かない。

「ボクの負けだ」

「なら……!」

「侍になれるならなりたい、その気持ちは今も変わらない。でも、なれるとは思わない。

それが答えだ」